

残る四半世紀にロータリー

アンは何をなすべきか

台北西北 方 壬 癸

「われわれはどこにゆくべきか」について、われわれは二つの因素を頭に浮べる。一つはロータリー自己の内在問題であり、一つは未来二十五年間の社会変化の問題である。

過去七十年の間にロータリーは大きな組織になり、整然とした美しい、輝かしい体系ができていた。ただ物がふるくなれば、すべてが表面の五彩十色に眩惑され、ロータリー精神に対して疎遠となり、形式化してしまい、陳腐なくりかえしになりかねないことは、心あるロータリアンの憂慮するところである。

ロータリーの精神を振り起せ、ロータリーの原点にかえれ、温故知新などの言葉は皆異句同音であり、ロータリーの精神の強調に外ならない。ロータリー精神は人間としての尊厳さ、尊さを認識し、人を人として扱う心、他人を思いやる心、即ち温暖な心、惻隱の心といえよう。この心を四つのテストに見証し、そして四つのサービズに具体化するときにロータリーの運動が生まれる。温暖な心を原点とし、横軸をフェローシップ、縦軸をサービズとして描かれる曲線が、ロータリー運動で

ある。

この原点を把持し、人間の尊厳さを認識し、即ちヒューマニズムの軌道の上で四つのサービズを強化してゆくことこそ、今後のわれわれロータリアンのなすべきことである。ここで国際ロータリーの提起してきたいろいろのテーマを考えてみよう。

一、定年を早めることによる影響について

工業の発達、社会の進歩につれて定年の年限がますます若くなってくる。五十以後にはもう定年となるであろう。この現象はロータリーに対してどういう影響があるであろうか。即ちどういう条件の下で初めてロータリアンになれるか、或いは定年後はもうロータリアンの資格を失うか、或いはロータリーに参加する資格がないか、という問題が考えられる。これに対してわれわれはより多くの優秀なロータリアンを保持することがロータリー運動を推進する最良の事であるという原則で処理すべきである。定年後は代表する職種がないためロータリーの職業分類の原則に悖る現象が起ってくるであろう。これに対しては、シニアアクティブ会員に選挙するか、或いはバスターバニズ会員に選挙すべきであろう。しかしこれには五年以上の正会員の経歴を要する。

ここでわれわれは一つの補救弁法を講ずべ

二、通貨膨脹の影響について

世界経済が萎縮するにつれて通貨膨脹がますますはげしくなる。そのため個人の所得が減少し、クラブの財務予算平衡がとれなくなってくる。これについてどうすべきか。

インフレのためクラブの財務予算支出の協調ができない可能性はないであろう。しかし会費が慢性的に増加しているのは事実である。特に地区年次大会も年毎に莫大な出費となり、いろいろと批判もされるであろう。無形の浪費をなくしてロータリー運動を強化することもわれわれのすべき事の一つである。

けれどもインフレによって起るロータリーの本当の危機はここにあるのではなく、むしろ職業奉仕の精神の崩壊である。殊に石油危機以後の過度の利潤追求、市場の操縦、物資の隠匿、価格の暴騰等の現象に表われた一連の反応は真正のロータリアンをしてひんしゅくせしめるものがあり、これらの大企業の管理者がロータリアンであるとすれば寒心に堪えないものである。勿論企業とロータリーとは或る点において異なるものがあるだろうが、ロピンス前会長の言うように人を作ることがロータリーの第一の任務であるならば、企業においてロータリー精神を徹底させることがこれからのロータリー運動にもっとも大事な現実的で有力な任務の一つになるであろう。

そして現在もっとも喧しく言われている公害問題も、これと同様な範疇に属するものである。ロータリアンが例会の時だけロータリアンであり、社会においては全く別種の人間であるならば、これはロータリー精神に対する一つの大きな諷刺といえよう。

三、会社合併と単独事業の没落の影響について

大企業が相互に合併し、単独の中小事業が没落してゆく現象はますます多くなるであろう。これも第二項と同様にいろいろ職業分類の問題の原因となろう。私の考えでは、優秀な会員であるものは、どういう風に事態が変わっても、会籍を保持させるべきである。第一項をも含めて、共通の原則を設けて統一弁法で処理するのが望ましい。

ここで私が強調したいのは、ロータリー運動は今後大企業ともっと密接な関係を持つべきことである。インフレの問題、公害問題においてもしっかりである。こういう消極面のみならず積極面においても、今後のロータリー運動には大企業の存在が介在してゆく。

その一つは、世界社会奉仕におけるロータリーの新しい運動に対して大企業に呼びかけることである。特に未来の世界経済は多国籍企業の方向に発展している。多国籍企業はみんな大企業であり、開発途上国家に対してたくさんのお優秀な企業家、経営者、技術者を育

きであろう。即ち五年以上なる規定を廃止すればいい。一人の会員の優秀性はロータリー運動に熱心であるか否かによって定めるべきであって、時間の長短をもって衡量すべきでない。もしロータリー運動に不熱心な会員は淘汰すべきである。国際ロータリー定款第四章第三条の規定にある資格問題および厳格な職業分類の規定は無能な者の参加を避けることと、同一職業人同士がロータリークラブを壟断することを予防する願慮から生じたものである。既に優秀なロータリー会員で、かつ或る職種を代表しなくなっても、職業分類の原則は阻害することのないこの人達をロータリーから排除することは、完全にロータリー精神に違反するものである。また、ロータリーに入らない前に、あるいは五十代の若さで定年になった者は他の職業につくであろうし或いはまた職業を持たないかもしれない。こういう人は既に優秀な能力の持主としての過去の経歴があるならば充分にロータリアンとしての資格をもっているものである。こういう場合には、特定の職種を持たなければロータリーに参加できないという規則は廃止すべきである。移動性の激しい社会においては職業分類の原則は大幅に修正されなければならぬ。より多くの優秀なロータリアンを得るために、障害は悉く取り除くべきである。

ロータリー運動も、開発途上国家の貧困、飢餓、疾病、無智に対して強力な世界社会奉仕を展開している。この運動は多額の費用を要し、一人や二人のロータリアンで出来るものではない。また幾つかのクラブが合同してやるときにも困難を感じる程に大きなものがある。多国籍企業は開発途上国家からたくさんの利潤を挙げている以上、その一部を現地に還元すべきである。そしてロータリーが一生懸命に開発途上国家のために社会奉仕をしていることに協力すべきである。

ロータリーがその運動を拡大し、世界社会奉仕を強力に推進するためには、真剣にその経済来源を考えるべきである。

ロータリーが今世紀の最後二十五年を如何にやってゆくべきかの最大の課題は、この変動、変化の激しい社会を迎えてヒューマニズムを堅守発揚し、住みよい人間の社会を作り、有害な因子を消滅させることにあるであろう。